

## 平成18年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成18年4月現在)を抜粋

機 関 名	大阪大学	整理番号	d009
1. 申請分野(系)	人社系		
2. 教育プログラムの名称	国際公益セクターの政策エキスパート養成 (創造性と行動力ある国際公共政策人材育成事業の拡充)		
3. 関連研究分野(分科)  (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 法学、政治学、経済学		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (国際政治学、国際経済学、国際法、公共経済学)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 ([ ]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名) 国際公共政策研究科 国際公共政策専攻[博士前期課程] 国際公共政策専攻[博士前期課程]	研究科長(取組代表者)の氏名  高 阪 章	
	(その他関連する研究科・専攻名) 国際公共政策研究科 比較公共政策専攻[博士前期課程] 比較公共政策専攻[博士前期課程]		
5. 本事業の全体像(わかりやすく、具体的に記入してください。)			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>本イニシアティブでは、10年間の当研究科の教育実績と今後の大阪外国語大学との統合効果を有機的に生かし、「国際公益セクター」で活躍できる政策エキスパート養成プログラムを強化することを目的としている。「国際公益セクター」とは、国際社会の共通利益・価値(平和・開発・人権等)の実現に資することを目的とした主体が行動しあうセーである。そこで活躍する人材を育成することは「応用力・国際性・複合型学際的視野」をもつ研究者の養成という阪大の中期教育目標の達成にも大いに貢献する。</p> <p>国際公共政策研究科クターで、国際機関や中央政府に加え、市民社会/NGO・NPO、マスコミ、そして大学・シンクタンク等を横断したセクタは、進取の気性と実学志向の伝統をもつ大阪大学において、国立大学(当時)に初めて設立された公共政策分野の大学院であり、国際的な視点から公共価値・公共利益を考え、政策を通じて問題解決を行う場面でリーダーシップを発揮できる人材の養成をめざしている。本イニシアティブにより、国際公共政策研究をさらにリードするとともに、知的政策エキスパート養成の機関として学内はもとより、日本の中心的存在となることをめざす。</p>			

## 5-(2) これまでの教育研究活動の状況(これまでの改善点と、今後の課題について)

当研究科はこれまで、世界が直面する諸問題の解決に取り組める人材の養成を軸に、教育・研究・社会貢献を行ってきた。出身母体の多様な学生を多く受け入れているために、カリキュラムでは、法・政・経の基礎コースや「公共政策」の基礎科目を提供している一方、専門知識を深めるための講義科目や実践力強化のためのプロジェクト型授業も重視してきた。特に、複数の履修モデルを提示し、将来の活動分野と授業の関連付けを明確にした。また、学位取得に向け、正・副複数指導教員制度の採用、論文作成技法の講義の提供、論文報告審査会の公開に加え後期課程2年生以上を対象とした論文進捗状況報告会も開設した。さらに、インターンシップの単位化、ディベート、交渉、政策シミュレーション、リーダーシップ等の新教育技法も取り入れてきた。一方、学生による授業評価を全教科で行い、結果は公開され、教授会で教育政策が検証されるシステムを作った。また、部内研究センターを創設し、学生を含めた共同研究体制を整備してきた。

その結果、これまですでに国際舞台で活躍する卒業生を輩出してきたが、国際的問題に取り組む政策エキスパートをより多く輩出するためには、国際機関でのインターンシップや海外でのフィールドワーク等の経験を積ませることや、ケース・スタディーを進め現場により接近した教育を強化する必要がある。また、それらに適した教材を特に外国語で作成することが急がれる。

## 5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(5-(2)を踏まえた大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組発展的展開のための計画、及びこの取組によって改善が期待される点について)

「国際公益セクター」で活躍できる政策エキスパート養成プログラムの強化という目的達成のため、まず、

- (a) 国際機関等へのインターンシップ派遣の推進
- (b) 中・長期的なフィールドワークへの助成
- (c) ケース・メソッド等の新教育技法に対応した教材開発
- (d) その他、学生の国内外での学会報告の促進

を試みる。その上で、内外の「国際公益セクター」との連携を深め、人材に関する要望を本教育システムにフィードバックすることで、

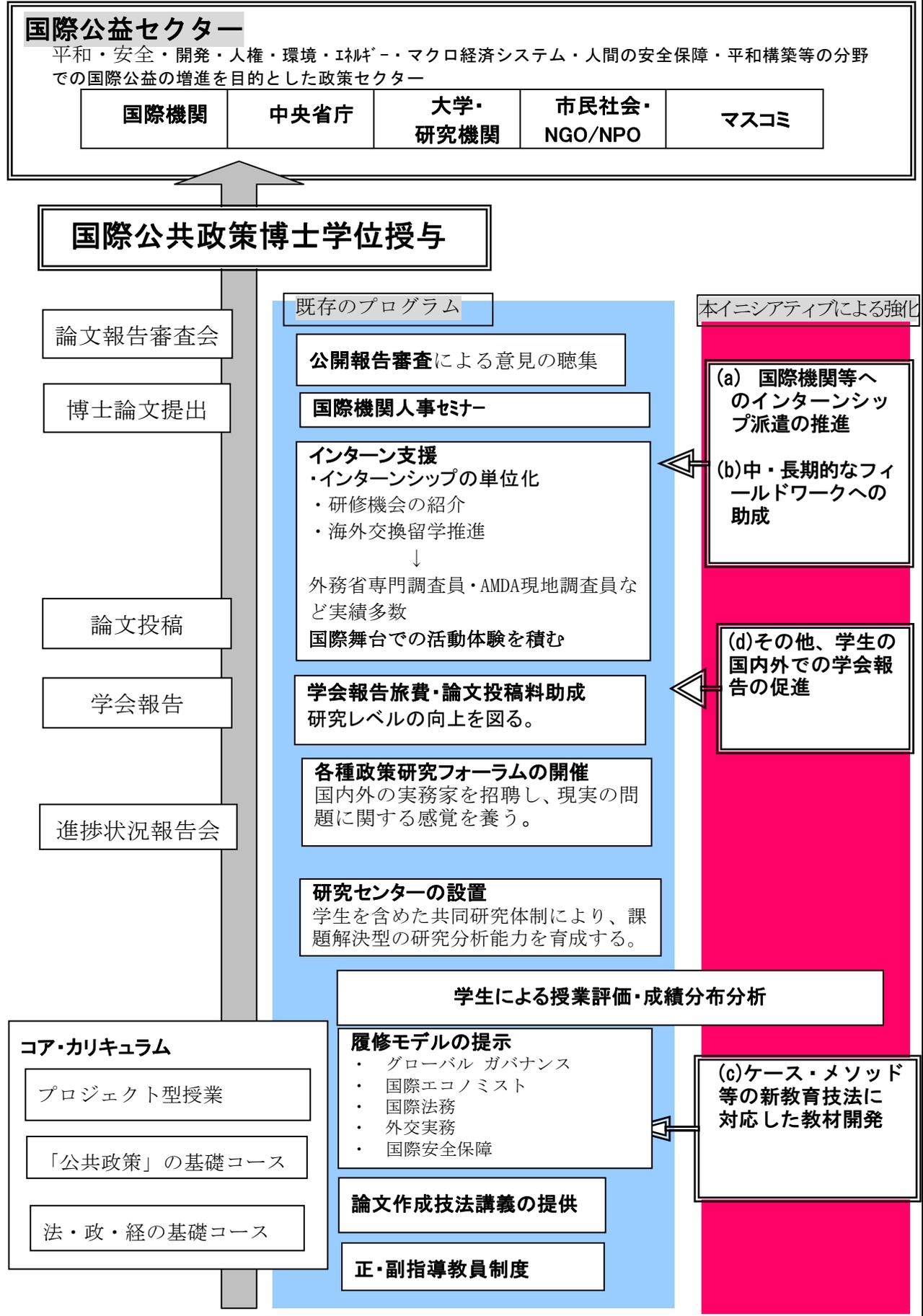
- (e) 教育を恒常的に改善するPDCA(Plan, Do, Check, Assess)サイクルを構築する。

また、教材およびカリキュラムは必要な教材を外国語で準備し、遠隔講義システムを通じて、

- (f) 国内外の同種の教育機関と連携した教育ネットワークを構築し強化をはかる。

6. 履修プロセスの概念図(履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。)

「国際公益セクター」で活躍する政策エキスパートとしての国際公共政策博士へのナビゲーション



**<審査結果の概要及び採択理由>**

「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化(教育の課程の組織的な展開の強化)を推進することを目的としています。

本事業の趣旨に照らし、

①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか

②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか

の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、従来からの取組が意欲的であり、申請教育プログラムも焦点が明確で、その実現性、今後の展開の両面で期待できると判断され、採択となりました。

なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。

[特に優れた点、改善を要する点等]

・今後多くの人材が必要となる国際公益領域における政策エキスパートの養成に意欲的に取り組んでいる。

研究科の持つ構想のうち、すでに実現できているものと、これから取り組むべきものが明確に区分され、後者のうち申請教育プログラムで焦点化すべき対象としてケース・スタディー・プログラムの充実と教材作成が位置付けられており、実現性、今後の展開も期待できる。

・また、他大学との連携などを積極的に模索しており、大学院生の論文投稿先も多様であり、対外的発信に努めている点も評価できる。